

## ◇第二十五代専如(門主)高岡教区ご巡回

去る、六月六日(月)第二十五代専如(門主)さまは、法統を継承され、奉告法要を迎えるにあたってそのご趣旨を広く宗門内にお伝えになるため、本願寺井波別院・本願寺福光教堂をご巡拝され、高岡教区(西本願寺高岡会館)をご巡回された。

午前九時二十五分より本願寺井波別院・午前十時三十五分より本願寺福光教堂をお立ち寄り巡拝された。両会所とも多くの参拝者が集う本堂で輪番、主管の調声のもと、一同で讃仏偈を勤め、自ら法統を継承されてのご決意や伝灯奉告法要への取り組みのお言葉を述べられた。続いて、成川和行随行長より『伝灯奉告法要についての消息』が伝達された。ご門主さまはそれぞれのお所を出発される前、向拝で参拝者との集合写真を撮影され、本堂に入らなかった参拝者お一人お一人にお声をおかけになるなど、終始和やかな雰囲気であった。

午前中の日程を終えられ、ご一行は宗門校で唯一、調理科のある高岡龍谷高校へご移動、講堂のご本尊にお焼香をされた後、調理科生徒による昼食のおもてなし、そして茶道部によるお抹茶のおもてなしにあわれた。

午後一時過ぎ、ご一行はさくら保育園前にて園児たちのお迎えに声をかけながら、徒歩にて教区役職者が出迎える会館へ入られた。午後一時四十五分より高岡教区の同世代僧侶、坊守、門徒の方々五名との懇談に臨まれ、『家族での寺院参拝を奨励するには』との題で意見交換をされ、予定の時間を超えて話し合いを深められた。

午後二時五十分より礼拝堂にて、記念式典が挙行され、厳かな雰囲気の中、ご門主さまが、『伝灯奉告法要

についてのご消息』を自らお読みになり、西岡孝了教務所長が成川和行随行長より御消息を拝受した。次に藤井邦磨特命布教使による記念布教が行われ、三百名を超える僧侶、坊守、寺族、門信徒の方々が礼拝堂内、屋外テント席にて聞き入った。

その後、会館前広場に会場を移し、記念行事『さくら保育園園児によるパラバルーン体操』が行われ、ご一行は、参拝者ともに、園児の元気な姿に目を細められた。行事中にご門主さまより参拝者に対してお言葉を述べられた。

最後に、礼拝堂内において教区役職者との記念撮影が行われ、ご一行は、新高岡駅から京都・本山へお戻りになった。

## ◇総局巡回について

七月十一日(月)午後一時三十分より総局巡回(公聴会)を実施いたします。

内容は伝灯奉告法要、熊本地震被害状況等の報告並びに平和に関する論点整理(中間報告)、宗門財政、第十回宗勢基本調査の説明・質疑応答等の予定。

西本願寺高岡会館  
永代経法要のご案内

下記の通り高岡会館の永代経を勤めます。  
お誘いあわせてお参りください。

日 時：7月15日(金)

日中—午前10時・逮夜—午後1時半

法 話：高岡教区布教団布教大会

午前； 安居美可子氏

(高岡市伏木 禅龍寺衆徒)

古石夏丸氏

(南砺市北市 円勝寺住職)

午後； 麻生尚子氏

(高岡市伏木 浄光寺衆徒)

織田隆夫氏

(高岡市石堤佐野 長光寺住職)

※お昼にお齋(お弁当)を準備しております。  
午前・午後あわせてお参りください。

## 「東日本大震災への支援」

### 1. 東北教区相馬組組長来訪

去る五月十八日、東北教区相馬組の湯澤義秀組長ら組の関係者三名が西本願寺高岡会館に来られ、教務所長と担当者がお話を伺った。組長からは今までの相馬支援米をはじめとする支援に感謝の意を述べられるとともに、復興に向けて新たな歩みをはじめたい、と今年度を以て相馬支援米を一区切りとしたいと申し入れられた。

東北教区相馬組は福島県の「浜通り」と呼ばれる海側の市町村に位置し、東日本大震災では、津波だけではなく、福島第一原子力発電所事故による深刻な汚染被害に見舞われ、十か寺中七か寺が避難地域内に立地し、現在も避難を余儀なくされている。その相馬組と高岡教区とは、二〇〇年前に富山県から多くの真宗門徒が相馬地域に移り住んだという縁もあり、震災発生以降、支援米や餅つきなどの交流が続けてきたという経緯がある。

湯澤さんは「今までたくさんの方の支援をいただいたこと本当にありがとうございます」とお礼の言葉を述べられたあと、「まだ徐々にはあるが、耕作放棄となっていた田んぼも今年から再びコマ作りがはじまった」こと、「政府が東日本大震災の復興事業は平成三十年まで、と明確に期間を定めたため、相馬組としてもそれに合わせて復興へと動く予定である」こと「五年が経つ中で『いつまでももらい続けるわけにはいかない』という自立への意識が芽生えてきた」ことから、今年度を以て支援米の受け入れを一区切りとしたいと表明された。

ただし、今後も餅つきや夏休みホームステイなどの高岡教区との交流はぜひ続けていきたいと併せて強く要望された。

また、支援米に関しても高齢者ばかりの仮設では自立や復興とすることを言える状況ではないため、それらの仮設にはできれば支援米をお届けしていただきたいとも要望された。

相馬組の現状も復興に向けて動き出したとはいえ、その道のり

は険しく、

「平成三十年までにあの汚染がどうにかなるとはとても思えない状況です。門徒さんも遠方に離散し、昔のように寄り合うこともできません。汚染されていない土地で寺院を再建しようとしても、とても門徒さんに懇志をお願いできる状況になく、また、東京オリンピックの影響で建材が高騰し、建設費用は二倍以上になっています」と苦悩を吐露される場面もあった。

### 2. 「第五回夏休みホームステイ」について

昨年まで四回にわたって開催していましたが、福島県飯舘村の子どもたちを招いてのホームステイ事業ですが、現在、下記の内容で検討を進めています。

詳細について決定次第、組長事務所を通じてご案内致しますので、よろしくお願いいたします。

期 日	八月六日(土)～九日(火) 三泊四日
内 容	各組ホストファミリーでの交流と世界遺産菅沼合掌集落での野外活動(予定)

### 熊本地震義援金報告

四月末より熊本地震災害への義援金を募集いたしましたところ、手数料を差し引き、百九十ヶ寺二団体一人より計三百二万四千八百八十八円ものご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

この義援金は六月二十日(月)に宗派本願寺たすけあい運動募金「平成二十八年熊本地震」災害義援金に送金させていただきます。

※先に熊本教区へお届けした見舞金のお礼状が届きました。教務所事務室前に掲示しておりますのでご覧ください。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

去る五月十六・十七日の両日、「磯はなび」に於いて、教区委員・組長・副組長・正副主幹を対象に六十六名の参加のもと教区委員研修会が開催されました。

初目の研修では『御同朋の社会をめざす運動』の方向性を考える―運動の出発点とその願いに学ぶ―をテーマに楠真さん（岐阜教区・研修講師）からお話をいただきました。

楠氏は、「現在の実践運動は、理念的な共有が無いままに『誰が何をしてもいい』というものになってきているため、総局が変わるたびに内容どころか質そのものが変わる恐れがある」こと、そして、「実践運動体制の中で社会貢献論が盛んに叫ばれるようになった背景には、社会における宗教法人の税制見直し論などの圧力や、『今までの活動は社会貢献になっていない』という見方がその背景にある」と指摘。その上で「社会貢献論を考えるのなら教団の持つ歴史性を無視すべきではない」と、「かつて教団の生き残りや教勢の拡大を図るため、社会貢献の名のもと、教団を挙げて全面的に戦争に協力するなど、際限のない権力迎合主義に陥ったその事実から学ぶことが重要だ」と指摘されました。

その上で「運動の出発点となった同朋運動は、その権力迎合体質を未だに克服できない教団に対する批判原理から始まりました」「これからの活動を考えるのなら、『宗教は何のためにあるのか』という宗教の意義をもう一度捉え直す必要があると思います」と提起されました。

それを受けた分散会では「現運動体制になって自由に何でもできるようになり、組活動も活性化した」と肯定的に受け止める意見がある一方、「教団を挙げて取り組む運動なのだから、もっと方向性を示すべきでは」、「『ご縁づくり』として、若い人の寺離れを問題にしているが、受け手ではなく寺の側に問題があるという視点が大抵」「社会貢献とは宗教活動の目的ではなく結果のほう。目的を見誤ってはいないか」「ただ単に社会貢献というのでは多数派

や体制側の言う社会貢献になってしまおう」と現在の運動の方向性を疑問視する意見が数多く出ていたのが印象的でした。

二日目の研修では「非戦平和運動の現在―『平和に関する論点整理』について―」をテーマに津山玄亮さん（教区委員会副委員長）が、昨年末に宗派から出された『平和に関する論点整理』（以下『論点整理』）を中心にお話しされました。

津山さんは『論点整理』にある、武器なき平和こそ仏教の理想としながらも、そこで終わらずに一般的平和論を持ち出し、「戦力の均衡によって戦争状態が回避されているという見方がある中で、そのような日本の平和な日常の中で、念仏者が『非戦平和』を主張して生活しているということは信仰と現実が矛盾してはいないでしょうか？『核の傘』に守られているのに、核のない平和を語ることは現実と理想が分裂してはいませんか？そのような問いが生じます」との捉え方を例に、「結局は、現実論や立場の異なる様々な意見を認めていこうという名目のもとに武力行使が可能な状況を容認していく、という姿勢が窺える」と指摘されました。

それを受けた分散会では「宗教が政治や国の方針に口出ししてはいけない、というのは国の方針と違う意見を表明してはいけない」というのと同義であり、それ自身が非常に政治的な発想。現在の教団においても真俗二諦という戦前の呪縛が未だに続いていることの証ではないか」との意見が聞かれた。

今回のお二人のご講師のお話しをお聞きし、

- ① 教団の活動を考えるときに、積極的に国の政策に迎合することによって教団の生き残りや教勢の拡大を図ってきた、その歴史を忘れてはいけない
- ② 運動とは、中央に任せるのではなく、自分たちの頭で考え作り上げていくものであり、これからの方向性を打ち出すのは私たち自身の仕事である

という事が大きな共通点としてあったように思います。

◇これからの日程（6/21～7/21）◇

6月		
21		B 講員研修打合 (富山)
22	長寿苑 ヤスクニ委員会	
23		連区仏婦大会 (～24・東海)
24	講社役員会 スタッフ会議	
25	まことの保育大学講座	
27	仏婦教材委員会	
28		B 組長会担当者会・懇親 会 (金沢)
29	コーラス (夜)	B 少年連絡協議会 (～30・石川) 寺青フットサル全国大 会 (石川)
30	財団評議員会 高寿会総会	
7月		
1	臨時教区会	
2	仏婦入門講座	
5	寺院女性会第2回研修会 龍谷教学会議定例会	
6		宗務懇話会 (～7・福井)
9		連区仏壮大会 (レセプシ ョン) (～10・富山)
10		
11	総局巡回 セミナー	
12	同朋養成研修会	全国組長研修会
13	コーラス	(～13・京都)
14	常例法座	教区会議長会総会
15	会館永代経	
20	ヤスクニ学習会	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送 (KNB)・73.8kHz.

◎毎週土曜日(本山制作)午前6:15～6:25  
□第2・4日曜日(富山・高岡制作)午前6:00～6:10

◎6/25 (土): 藤井 一葉氏

(「他力本願.net」スタッフ)

「未 定」

□6/26 (日): 段證 武邦

(高岡教区常尊寺)

◎7/2 (土): 高橋 一仁氏

(浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)

「未 定」

◎7/9 (土): 加茂 順成氏

(他力本願.net スタッフ・

浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)

「未 定」

□7/10 (日): 未 定

(富山教区)

◎7/16 (土): 加茂 順成氏

(他力本願.net スタッフ・

浄土真宗本願寺派総合研究所研究員)

「未 定」

【西本願寺高岡会館7月の常例法座】

ご講師: **美馬裕美氏**

(滋賀教区)

ご講題: 『**願い**にいきる』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。

※訂正について

『2016 (平成28)年度高岡教区御同朋の社会をめざす運動計画書』40ページの教化団体等役員名簿(教区連盟等)に誤りがありましたのでご訂正いただきますようお願い申し上げます。

保育連盟副理事長 飛鳥一枝 若神組  
〒939-1275 高岡市中田 4500-1

☎0766-36-1964